学校教育目標「磨かれた知性　しなやかな心　すこやかな体を持ち　将来を豊かに生きる力を身に付けた生徒を育成する」

時中だより

令和６年の漢字 信

学校だよりコーナー

時津町立時津中学校
令和５年度学校だより３２号
令和６年１月１２日発行
文責：校長・副校長

令和６年スタート「第３学期始業式」PART I

今年の漢字一文字

１月９日（火）にスタートした３学期。今年は暖冬と言われており、比較的暖かい冬でしたが、この日の気温はとても低く、寒い中での学校再開となりました。しかし、その寒さにも関わらず、生徒の皆さんは、友達や先生方に元気な笑顔であいさつをし、久しぶりの登校に喜びを感じていたようです。

さて、そのような中、体育館で始業式を行いました。静かに入館し、新生徒会役員による整列指導や、しっかりと背筋を伸ばして話を聞く姿勢には、新年の決意が感じられる様子がありました。

校長先生の式辞は、令和５年度の集大成となる３学期に向けた生徒の皆さんへの期待と願いが込められたものでした。校長先生の話を受け、一人一人が心に決めている目標に向かって、さらに成長してくれるものと思います。引き続き、保護者・地域の皆様には、温かいご支援とご指導をよろしくお願いいたします。以下、校長式辞（一部抜粋）です。

皆さんは、新しい年を迎え、新たな決意を胸に今、始業式に臨んでいることと思います。今年は、新年を迎えたと思ったら、悲しい出来事が立て続けに起こり、非常に心配しました。能登半島での地震では、たくさんの人が亡くなられ、被災され、現在も避難生活を送ることを余儀なくされています。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、一日でも早く復興することを、ここにいる全員でお祈りしたいと思います。

時津中学校に赴任してから６年目になるのですが、毎年、年の初めには、校長式辞の中で「今年の漢字」一字を皆さんに示して、その漢字の意味するところを、心がけて学校生活を送って欲しいという願いを込めて、皆さんに話されていました。その漢字を「学校便り」のタイトルにもしています。

さて、令和６年、今年の漢字は「信（しん）という字にしたいと思います。「信」とは、「信頼」「信じる」といったような使われ方をします。

「人を信じる、友達を信じる」とは、相手のことばや人柄に偽りがないものと思う。互いにそのように思うことで、信頼関係が生まれて、互いに望ましい人間関係を築くことができるのだと思います。

２学期の終業式で、「いじめ」のことについて話しましたが、この「信」には、「偽りのない」「うそをつかない」という意味もあります。ぜひ、級友と接するときは、互いに自分の思いや気持ちを正直に相手に伝えてほしいと思います。３学期は、級友を信じて、信頼して、いじめのない、人が嫌だと思うことを不用意に発言したり、自分の言動で友達がどのように思うか、よく考えずに行動に移してしまったりすることがない、学年の締めくくりに相応しい３学期にしてほしいと願っています。

もう一つ、「箱根駅伝」で優勝した、青山学院の原監督は、「負けてたまるか大作戦」というスローガンを掲げ、努力してきた自分を信じなさいという意味を、そのスローガンに込めて選手を鼓舞しました。私が今年の漢字を「信」に決めていたところに、原監督のコメントに「信じること」が出てきました。皆さんも勉強や部活動で自分の力を伸ばそうと努力していると思います。原監督が言っているように、「まずは努力して」そして、「その努力したことを信じて」、それぞれの目標を達成してほしいと思います。

最後にこの令和６年が皆さんにとって、そして、時津中学校にとって良い年になることを祈って・信じて式辞とします。